

## 学校・学童におけるインフルエンザ流行時等の対応策充実を

五十嵐 恵千子

(問) インフルエンザ流行時等の学年閉鎖や学級閉鎖の実態。また、急な下校等、緊急対応策についてお伺いします。

(答)市長 学童では、学校と同様に集団感染リスク低減の為、当日の急な下校等、緊急かつやむを得ない場合を除き、原則お預かりしません。保護者はご近所等、いざという時に助けていただける知人づくりに努めて頂きたい。また、手助けを受ける事が難しい際は「ファミリーサポート

ト事業・緊急サポート事業」を活用しながら、緊急時のサポート体制づくりを考えて頂きたい。

(答)教育長 各学級児童数の2割程度の欠席者が出た場合、学校医と協議の上、概ね3日間の学級閉鎖を実施。急な下校等については、明確な規定はないが、当日の欠席者数や登校児童の健康状態を考慮し、下校の決定をしています。

(答)健康福祉部長 学童入室時の説明等、保護者に安心して頂けるよう推進します。

(答)教育部長 学校でファミリーサポート事業等を広く保護者へ周知する事を検討します。

◆避難所や防災倉庫へ「自動開錠ボックス」の活用を

(答)市長 地震の大きな揺れにのみ自動開錠される利点はあるが、管理面での課題を考え、今後の地域防災計画等の中で避難所管理として検討します。

◆道路整備計画の見える化を

(答)都市建設部長 毎年優先順位を定めて行っている現状です。

## 軽・中度難聴の高齢者と子どもたちに補聴器購入補助を

互 金次郎

(問) 高齢者の難聴は、閉じこもりや老人性うつ、更に認知症等の原因のひとつになるものとも言われています。急速な高齢社会を迎えるにあたり、高齢者の難聴対策は必要不可欠と考えます。また、子どもたちにとつ

て幼少期は言葉や社会性を獲得する重要な時期であり、学齢期は将来にわたる基礎学力を習得する大事な時です。もし軽・中度難聴の子ど

もさんが、経済的負担を理由に補聴器装着が遅れるようなことがあれば、その子の人生にとっても大きな損失となりかねません。身体障害者手帳の対象とならない軽・

中度難聴の方が補聴器を購入する場合は、全額自己負担になり、手軽に補聴器を使用できる状況にはありません。

軽・中度難聴の高齢者と子どもたちに補聴器購入補助を検討しては。

(答)市長 平成24年度より埼玉県が実施予定の軽・中程度

の難聴児に対する補聴器購入補助制度や他市町村の事例を踏まえ、研究します。

◆自治体クラウド導入で災害リスク回避と経費削減を

(問) 自治体クラウド活用で、運用コスト削減と外部に住民情報のバックアップ確保が可能となり災害時のリスク分散も図れます。導入検討を。

(答)総務部長 5市1町埼玉県東南部都市連絡調整会議の協議の進展に合わせ対応します。

## 吉川市の最新情報の発信方法について

稲葉 剛治

(問) 現在吉川市で試行しているツイッターの意味、目的は。

(答)政策室長 吉川市で万が一災害が起これば、サーバーがダウンしたり、通信回線が切断されたりといった時、通信手段がとれないような状態になった時の備えとして試行する事を決めた。

(問) 災害時の情報発信手段として運用する為にフォロワー数を増やす事にも力を入れて頂きたい、市のHPの

更新情報、イベント情報など常時発信し、災害が起きたら災害情報の提供に切り替えるという使い方はどうか。

(答)政策室長 災害時、いざという時に多くの方に使ってもらえるにはご指摘のようなフォロワー数を増やしていく事が非常に有効であると思う、今後検討していきたい。

◆吉川駅の整備について

(問) 吉川駅前敷石のデコボコを整備して頂く事で市民の方の負担が減ると考えるがどのように考えるか。

(答)都市建設部長 基準の枠の中で実施させて頂いた所だが、そういった声も上がっているので研究していきたいと考えている。

◆発達障がい児への支援について

(問) 発達障がいの早期発見の為に5歳児健診の実施を願いたい。

(答)健康福祉部長 5歳児健診も発達障がいの早期発見に役立つと考えているが、それ以前の早い年齢に重点を置いて実施して

行きたいと思っている。



ファミリーサポートセンター (おあしす内)